

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300019
法人名	有限会社 オクムラハーネス
事業所名	グループホーム 泉の里
所在地	鹿児島県鹿屋市上高隈町1579-1 (電話0994-45-2388)
自己評価作成日	平成25年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年12月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当「グループホーム泉の里」は鹿児島県鹿屋市大隅半島の高隈山系に囲まれた緑豊かな場所にあります。すぐ近くには大隅湖もあり、四季折々の季節を実感することのできる風光明媚な所でもあります。「明るく豊かな心と心のふれあいを」をホーム理念に掲げ、本人様はもとよりご家族の皆様が安心して暮らせるように、なるべく残存機能の維持向上に向けたサービス、ご本人の想いが少しでも導けるような支援に努めております。月日の経過に伴い、心身の状態の低下も見られ以前のような活動的な日課を送ることも次第に困難になられておりますが、常に健康観察には留意し変化時は「訪問看護ステーション」「かかりつけ医」「ご家族」との報告・連携に努めております。食事面では、なるべく地元で採れた新鮮な食材を使い皆様に喜んで食べていただいています。また身体状況に合わせて食事形態の工夫も行っています。当ホームも開設8年目になりました。これからも地域住民の方々とは友好的な関係を保ち、「泉の里からはいつも心地良い風が吹いているよ」と言っていただけのような解放された明るいホーム作りを目指して参りたいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は大隅半島、高隈山系の自然に恵まれた裾野に立地している。地下水が豊富で米や野菜も自家製である。散歩やドライブの際には地域住民と挨拶を交わし、ふれあいながら生活できる環境にある。
- ・自治会に加入し、地域の奉仕作業や環境整備に積極的に参加する一方、事業所の行事には地域住民が参加するなど、日常的に交流している。また、地区の小学校の運動会を見学したり、中学生の職場体験学習の受け入れを行なっている。
- ・災害対策として、地震や水害などについては、災害避難マップで確認している。また当事業所は災害時の避難施設となっている。
- ・利用者個人々の生活歴や習慣を把握し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。
- ・職員へ、各種研修への出席を奨励して職員の育成に力を注ぎ、働く意欲を引きだしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を掲示し、また日々のケアの中で念頭に置いたサービスが提供できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、心のふれあいを大切にしたい理念を掲げている。朝の申し送り時やユニット毎の会議、職員会議などを利用して振り返り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域との交流が図れるように努めているが、日常的には不足している。	自治会に加入し、回覧板等で地域と情報のやり取りがある。地域行事や奉仕活動に参加している。また認知症相談にも対処するなど地域の一員として交流を図っている。地区中学生の職場体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議、年2回の家族会を通じて、認知症の方の支援法について、地域の人に広める機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施状況、評価への取り組み状況等を報告し、委員からの意見も頂きサービス向上に役立てている。評価結果は閲覧していただいている。	当会議は行政関係者、町内会長、民生委員、消防分団長、家族代表の参加を得て定期的で開催している。事業所の状況や外部評価の報告などを行い、現在取り組んでいる内容についても意見をもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への出席依頼、入居者情報の連絡、事業所の現状等を常に伝える協力体制がある。	市の担当者とは日頃から、電話やメールで連携を取り合い情報交換をし、アドバイスをもらっている。また運営推進会議を通して協力関係もでき、市主催の研修会などにも積極的に参加している。さらに避難施設としての協力体制を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束による弊害について定期的に研修に参加し、職員間での学習会、ご家族への説明を行っている。	「身体拘束廃止委員会」が設置され、外部研修や内部研修に参加し、共有認識を図っている。昼間は施錠せずにセンサーで対応し、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。事故防止のための身体拘束については、家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加できるように努めている。ホーム内でも内部研修を通じて、虐待が起こらないように指導の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護制度の理解について学習する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については、入居時に詳細を説明できるように努めている。なるべくご家族が不安をもちたれないように、懇切・丁寧をモットーにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者には常日頃話し合いの場面を作っている。家族には家族会や面会時に意見や要望が自由に言えるように、環境作りを行っている。またホーム便り等では要望等について掲載し、運営に反映させるように努めている。	日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。家族会や面会の機会に意見を出してもらおう工夫をしている。遠方在住や面会に来られない家族には、便りを出している。出された事項は職員で話し合い、その対応結果を含めてホーム便りで公表している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体会、ユニット会議、朝夕のミーティングを通じて、職員からの意見や提案を聞く機会がある。	管理者は、毎月の職員会議や毎日のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、相互のコミュニケーションを図っている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業環境の整備は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は全員出席で毎月10日に開催している。外部研修は積極的に参加する環境がある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区にGH協議会があり、同業者との交流の機会はある。また、地域包括支援センター主催の研修もあり、ネットワーク作りもできている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪ねたり、ホームに体験として来訪していただく等、信頼関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴、最も不安な事などについてしっかり耳を傾け、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、かかりつけ医の情報を参考にしながら、本人、家族と話し合う機会を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に共に暮すという視点を持ち、良好な関係が築けるようにコミュニケーションを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の友好的な関係が持続するように、常に連絡を取り合いながら、本人を支える努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会等があった時には、雰囲気作りを行うなど支援している。	これまでの生活歴や習慣を大切にし、行きつけの理美容院もホームに出張してもらい、知人友人の訪問なども歓迎して、関係を継続できるように支援している。家族の協力で墓参も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切にしながら、職員が仲介役となり、気の合う仲間作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な事情により他のサービス事業所に移られたり、医療機関へ入院された時でも、不安が軽減するように、訪問したり、家族からの相談にのったりしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活ぶりを十分観察しながら、本人の意向が導き出せるように努めている。発話の少ない方は表情や体動も観察する。	日々の生活の中で様子を観察し言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。ケアノートを利用したりして職員間の情報交換で、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを十分に行い、家族や担当ケアマネからの情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の残存機能の維持向上につながるように、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	経験の浅いスタッフが多いため、もう少し介護計画の学習の機会を増やしていく必要がある。朝夕のケアに対するミーティングはできており、プランの立案に活かしている。	本人や家族の意向を汲み取った上で、職員で話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しは6ヶ月毎に行っている。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に対する記録があまり実践されていないように思う。記録内容が日常生活に対するケア内容に偏っている。介護計画の見直しに向けたケア記録になるように、指導の徹底を図りたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の受診同行が原則になっているが、受診同行、入退居時の送迎、家族の来訪時の食事提供等を行なっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>火災避難訓練に地域の消防分団、地域住民の協力が得られたり、運営推進委員に自治会長、民生委員に就任してもらい、情報交換したりする体制がある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望の医療機関を受診している。普段の健康状態はかかりつけ医に適宜報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診となっている。基本的には家族同行となっているが不可能な場合は職員が代行し、結果はそのつど家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師へ24時間を通して連絡・指示をもらえる体制がある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は医療機関に情報提供し、できるだけ入院期間が短期間で済むように、主治医、家族との連携を取りながら、早期の退院に結び付けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時や家族会開催時随時事業所の方針を説明し、各家族の意向についても確認している。必要な方は「在宅診療所」の利用を勧めている。</p>	<p>入居時に重度化した場合における対応の指針や看取り介護に関する対応を説明し、家族の意向についても確認している。段階的に家族と話し合い方針を共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>学習の機会をもっと増やしていく必要がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災については年2回消防署、地域の消防団、地域住民の協力を得て実施している。自然災害については、災害避難マップ等での確認、当ホームは非難施設として行政に協力している。</p>	<p>年2回消防署の立会いのもと、昼夜間想定での避難訓練を実施している。緊急連絡網に地域住民も登録し地域消防分団とも協力体制が築かれている。地震や水害などの自然災害については災害避難マップ等で確認している。災害時の水や食料の備蓄もある。地域の避難施設にもなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの方針として最も留意している点である。常に人生の先輩として敬う気持ちを持って接し、個別性を大切にされたケアを行なっている。	利用者の尊厳や性格、思いに配慮しながら馴れ合いにならないケアや言葉かけに努めている。ミーティング時などに勉強会を行なって、さらなる向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる場面が年月の経過とともに少なくなっている傾向があるが、一人ひとりの個性を大切にしながら、本人の思い、意向が導き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望の表出の可能な利用者が次第に限られてきている。職員の都合が優先されている傾向がある。努力したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感のある衣服の着用、髪染め、馴染みの美容師さんによる整髪、化粧品の使用等身だしなみに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに取り組める利用者はほとんどおられないが、利用者の咀嚼能力に応じた食事形態を工夫して提供している。食材は地元で採れたものをなるべく使用している。	地元の食材を使い、希望に添った献立や食事形態を工夫している。後片づけを職員と一緒にやっている。月1回の外食や行事食も楽しみにしている。家族の協力での外食もある。米は自家製である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を個別に記録し、必要摂取量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後毎に口腔ケアを実施し、就寝前は義歯洗浄液で消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間毎にトイレ誘導を行う。夜間と日中の紙オムツの種類を使い分けし、オムツ使用の軽減を図っている。	排泄のパターンを把握し、時間誘導でトイレでの排泄を大切にしている。さらにおむつを減らす取り組みと排泄の自立を支援している。また水分量、繊維質の食物摂取などで食生活を工夫し、自然排便にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、繊維質の食物摂取、身体を動かす等個々の身体状況に合わせた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴希望、皮膚疾患や排泄汚染の方は、積極的に入浴していただくように支援している。	基本的には隔日入浴であるが、個々人の体調や希望に添った入浴ができるように支援している。脱衣所には冷暖房の設備があり、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動量を増やし、夜間の良眠を促しているが、次第に活動できる範囲も狭まり中途覚醒される方も増えている（認知症状の増悪もある）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報の共有を図りながら、状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からこれまでの生活暦を聞いたり、普段の生活ぶりを参考にしながら、本人の出来ること、得意なことを見出し生きがいにつながるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節に応じて外出の機会を作っているが、個々の希望に沿う外出等は少ない。家族の協力による外出の機会は時々ある。	日常的には施設周辺へ散歩に出かけたり、東屋で懇談している。さらに計画を立て、外食やイチゴやミカン狩り・夜桜・イルミネーション見学などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として事業所が預かり、外出時等希望により買い物の支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望により電話の取次ぎを支援している。利用者は少ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境の整備を行いながら、季節感のある掲示物をしたり、自分の居室がすぐ分かるように、氏名の表示を行い混乱を防止している。	共用の空間は換気や採光、温度に配慮し季節の花や利用者の作品や日常の写真を飾っている。ホールにソファも多く置かれ、和室のスペースもあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と会話できるスペースやソファを備えている。時に応じて、職員が間に入り良好な関係ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用は基本的に本人の意思にお任せしているが、整理整頓が困難な方がほとんどである。職員と一緒に片付けてもやはり自分に思い通りに乱雑に置いてある状況である。プライバシーの保持に努めている。	ベッドやクローゼット、押し入れは備え付けである。使い慣れた物を持ち込んでもらい、個性のある部屋になっている。馴染みの物で居心地の良さが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の心身状況を把握し、必要な場所に手すりを設置したり、立ち上がりがあり危険な方は畳部屋にして対応している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない